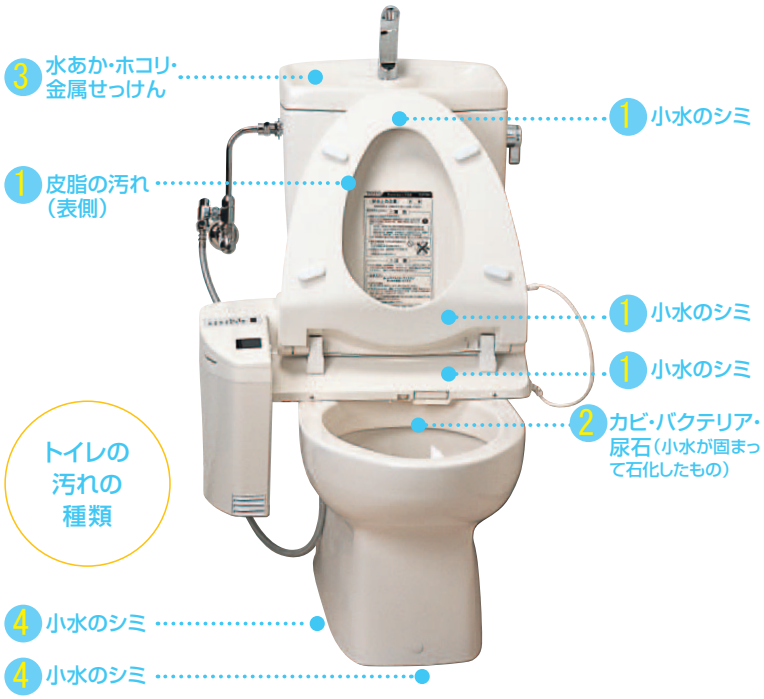
# トイレのおそうじ

トイレは「汚れになる前にそうじをする」
ことが大切。使うたびに、
手の届く範囲をサッとひと拭きしたり、
水を流しながらトレイブラシでこすったりを
習慣にしてしまいましょう。
特にこぼれた小水は、
乾いてしまうと悪臭の元になるので、
すぐ拭き取ってください。




## 汚れ 1 ウォシュレット

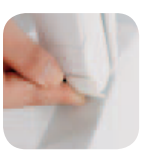
柔らかい布、綿棒、トイレ用中性洗剤

### ＜便座・便ふた＞

- 水でぬらして固く絞った柔らかい布に中性洗剤かクリーナーをつけて便座の表面を拭き、早め（3分以内）に水拭きをします。
- 同様に便ふたの表裏と便座の裏側をふきます。便座・便ふたはしばらく開けておきます。

### ＜便座・便ふたのすき間＞

便座取付面は小水が入り込んで黄ばんだ汚れがつき、悪臭の原因になりやすいところです。時間があるときには外してそうじしましょう。



- 便座・便ふた着脱で取り外します（取り外し方・つけ方は取扱説明書をご覧ください）。
- 水でぬらして固く絞った柔らかい布に中性洗剤かクリーナーをつけて拭き、水拭きします。細かいところは、綿棒を使います。

### ＜ノズル＞

- ノズルおそうじ機能付のものは、電源を入れて「ノズルそうじ入／切」スイッチを押し、ノズルを出します。
- 通常は水拭きで十分。汚れがひどいときは、水でぬらして固く絞った柔らかい布に中性洗剤かクリーナーをつけて拭き、水拭きをします。ノズルの先端を無理に引っ張ったり回したりしないようにします。

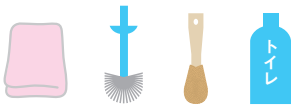
- スイッチを押してノズルを収納します。

※ウォシュレットクリーナーきらりあを使用した場合は、水拭きは不要です。柔らかい布でやさしく拭き取ってください。

**！注意**

- ウォシュレットやウォームレットには、電子部品が入っているので水をかけるのは厳禁です。
- プラスチック素材が使われているため、酸性やアルカリ性の洗剤で拭くと割れるおそれがあります。
- 便座についた洗剤は確実に拭き取らないと、便器用洗剤の気化ガスがウォシュレット本体に入り、故障の原因になります。
- 乾いた布で拭かないでください。静電気でホコリを吸い寄せてしまいます。また、便座・便ふたの表面に傷がつく原因になります。

## 汚れ2 便器の裏側




柔らかい布、トイレ用ブラシ、靴用ブラシ、トイレ用中性洗剤

- 中性洗剤かクリーナーをブラシにつけ、内側とフチ裏をこすり洗いします。届きにくい場合は靴用ブラシで、傷つけないようにやさしく洗います。
- 水でぬらして固く絞った布に、中性洗剤かクリーナーをつけてフチの裏側を拭き、水拭きをします。

**! 注意**

便器そうじに使った洗剤が、ウォシュレット（プラスチック部）についてしまったときは、水でぬらして固く絞った柔らかい布でしっかり拭き取ってください。

## 汚れ3 手洗器・水栓金具

柔らかい布、スポンジ、歯ブラシ、トイレ用中性洗剤

- タンク内に落とさないように、ホコリやゴミを取り除きます。
- 中性洗剤をスポンジにつけて洗い、水拭きします。
- ★水栓金具に水あかがこびりついてしまったら、歯ブラシにクリーナーをつけ、傷つけないようにこすり落とします。一度で落ちないときは、時間をおきながら4〜5回繰り返し、水拭きして、から拭きします。

**! 注意**

- 洗剤がタンク内に入ってしまったときは、便器洗浄操作により、タンクの水を入れ替えてください。そのままにしておくとタンクの内部部品を傷め、故障の原因になることがあります。
- 酸性・アルカリ性洗剤は使用しないでください。タンクの内部部品を傷め、故障の原因になることがあります。

## 汚れ4 床

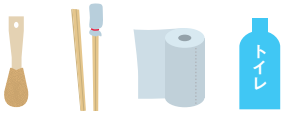
柔らかい布、ウェットぞうきん、割り箸に布を巻いたもの、住宅用中性洗剤、トイレ用消臭スプレー

小水がこぼれたものが乾くと悪臭の元になるので、こまめにチェックするようにしましょう。

- ウェットぞうきんか水でぬらして固く絞った布に中性洗剤をつけたもので拭きます。
- 割り箸に布を巻いたもので、便器と床のすき間の汚れや水分を取り除きます。
- 水拭きし、から拭きします。
- 便器と床のすき間に消臭スプレーをしておくと、小水のにおいの発生を抑えます。

### Help!

## 便器に黄ばみや輪ジミができてしまった！




靴用ブラシ、割り箸に布を巻いたもの、キッチンペーパー、トイレ用中性洗剤、トイレのクリーナー陶器用

- 洗面器などに中性洗剤を入れ、キッチンペーパーをひたし、汚れの部分に張りつけて3分おきます。ウォシュレットにはつけないように注意してください。
- ペーパーをはずして、ブラシでこすり洗いし、洗剤成分を流します。

- 落ちないときは、割り箸に布を巻いたものにクリーナーをつけて、少しずつこすって落とし、仕上げに水を流します。